

第1回石川県DX推進本部会議 議事起こし

- 日時：令和8年5月25日（月）15:00～16:00
- 場所：庁議室 完全オープン（全庁 Teams 配信、マスコミ開放）での開催
- 議題：
 - 1 開会挨拶
 - 2 議事
 - 2-1) 「石川県デジタル化推進計画」の取り組み結果について
 - 2-2) 県庁DX推進に関する職員アンケートの分析結果について
 - 3 意見交換
 - 4 閉会挨拶

● 名簿（石川県DX推進本部会議）

職	氏名			
本部長	知事	山野之義		
本部長代理	副知事	酒井雅洋		
本部長代理兼CDO	副知事	浅野大介		
本部員	警務部首席参事官（警察本部長代理）	高井充人		
	教 育 長	塩田憲司		
	総務部次長（総務部長代理）	横越弘行		
	戦 略 広 報 監	中塚健也		
	デ ジ タ ル 推 進 監	番匠啓介		
	危機管理部 長	竹沢淳一		
	能登半島地震復旧・復興推進部長	新田町弘幸		
	企画振興部長	矢後雅司		
	文化観光スポーツ部長	戒田由香里		
	健康福祉部長	塗師亜紀子		
	生活環境部長	成瀬英之		
	商工労働部次長（商工労働部長代理）	斉藤淳		
	農林水産部長	松本博樹		
	競馬事業局長	北村裕一		
	土 木 部 長	木村康博		
出 納 室 長	山本潤			
事務局	デジタル推進監室			

○議事概要

1 開会挨拶

<本部長（山野知事）挨拶>

- DXという取り組みにおいて重要なのは、「D（デジタル）」ではなく「X（トランスフォーメーション）」である。
「トランスフォーメーション」とは、日本語で「変化、変容、進化」を意味する。
デジタルという「ツール」をつかって、石川県庁という行政組織体、そして県庁職員が変化することこそが必要である。
- 令和4年にデジタル化推進本部が発足し、まずは県庁の「デジタル化」が進められて来た中、着任から2か月ではあるが県庁内のデジタル化は相当進んできており、次のフェーズに進んでいく段階であると感じている。
- デジタルという手段を使って、県庁という組織、職員の一人ひとりが進化していただきたい、そんな思いから、本部名称を「デジタル化推進本部」から「DX推進本部」へ変更する。
- 今後は、「石川県DXビジョン」の策定を進め、議論を深めることで、県庁のみならず県全体の変革につなげていく。

2-1) 「石川県デジタル化推進計画」の取り組み結果について

<本部長代理兼 CDO（副知事） 浅野 大介>

- これまでの取り組みの振り返りとして、「石川県のデジタル化推進計画」を令和3年度に策定し、5年間の計画として「電子決済」「行政手続きオンライン化」等様々な取り組みを通して県のデジタル化を進めてきたところである。
- 昨年度からは、「行動の変容」に向けた働き方として、「6つの共通の型」に取り組んできた。
- さらに、令和7年度ではM365を基盤とした働く環境の整備を進めてきた。
モバイルPCの整備や外部で業務出来る環境の整備を整え、今年度は山野知事のもと、「今の時代の働き方」に合わせたPCへの切り替えも行い、働く環境の整備をさらに加速させていくところである。
- 県庁はこれまで、「デジタイゼーション」「デジタライゼーション」そして「DX」と、段階を踏んで進んできている。
- 「デジタイゼーション」では、単純なデジタル化（紙をデータに…）を進めていく段階である。
「デジタライゼーション」では、「オンラインでの打ち合わせによる起動力向上」「RPAなどを活用した単純作業からの解放」など、業務のICT化を進めていく段階である。
県庁でも、すべてが完了しているとはいいがたいが、ある程度の部分でこれらが進められたと考えている。
- これらの取り組みをさらに進めていきつつ、いよいよDXの段階に進んでいくフェーズに来ている。
DXのフェーズでは、データやAIを最大限活用し、発生するであろう課題に対して、予測して対応していく。そういった「先読み・先回りの行政」行政を目指していく。
- 今回、会議体を「DX推進本部」へと変更した。
石川県庁の取り組みを、市町、住民、石川県全体へわかりやすく発信し、人や企業が集まるような石川県にすることが非常に重要だと考えており、秋ごろには「石川県DX推進ビジョン」を公表できるよう、引き続き取り組んでまいりたい。

2-2) 県庁DX推進に関する職員アンケートの分析結果について

<デジタル推進監 番匠 啓介>

- 職員アンケートの結果について、次の通り報告する。

【実施概要】

- ・実施期間：5月1～5月13日の6日間（休日・祝日除く）
- ・回答者数は前回とほぼ同等となった

【満足度について】

- ・DX推進に対する満足度は前回より向上している

【共通の型の実施状況】

- ・すべての項目で「型を知らない」という職員は減少。認知度は確実に向上した。
- ・一方で「クリアデスク」「オンオフ切替」は「できていない」という割合が増加している。
- ・両取り組みを分析。
- ・「クリアデスク」の取り組みについては、「取り組むことでの効率化が見込めない（現状のほうが効率的）」「業務自体が紙主体である」といった「仕事自体が紙で進めることになっている」という点が挙げられた。
- ・「オンオフ切替」については、「ルールがなく、何から取り組めばよいかわからない」が最多で、業務の特性上「緊急性を要するものが多い」という業務の性質上やむをえないという意見もあった。

【デジタル化・DXにより改善したい業務】

- ・問い合わせ対応、照会対応等、日常的に発生する定型業務が多く寄せられていた。
- ・職層別でも、対応をになう「若手～中間層」においてその傾向が高い状況であり、現場の業務改善が求められていることが分かった。

【デジタル化・DXによる業務改善に向け、必要なこと】

- ・全体で見ると、「ITスキル不足」や、業務多忙により「改善時間が確保できない」という意見が多くみられた。
- ・一方、職層別で見ると、管理職層においては「組織として方針が弱い」としている一方、「新しいやり方に対する不安や抵抗感がある」という相反する回答状況となっていた。

【現場に出て業務を行うために重視すること】

- ・職員の多くが、利用場所や通信環境に左右されないことを重視している。
- ・特に管理職層では、9割が「何らかの形で外出すること」を想定している。

【県庁の DX 推進や、今後の業務改善に向けての主な意見】

自由意見については、6 つの観点に分類して整理した。

① 全般的な意見について

近年のデジタル化の取組については、一定の評価が多かった一方、

- ・費用対効果への配慮が必要
- ・現場の意見をもっと反映すべき
- ・DX の目指すビジョンが不明確

といった意見が寄せられた。

② 業務改善関連について

現行業務の見直し（BPR）は不可欠との意見が多数見られた。

また、単純な既存業務のデジタル化だけでは不十分であり、

- ・定型業務の簡素化
- ・業務の省力化
- ・業務そのものの削減

という取り組みが必要というコメントも見受けられた。

③ システム統合・一元化に関する意見

- ・システムが相互に連携していない状態では効率化が進まない
- ・システムが複数併存していることが問題
- ・単にシステム化するだけでは業務改善につながらない

④ ICT 基盤・業務環境の整備に関する意見

- ・事務用 PC のスペック不足への指摘
- ・場所に依存しない通信環境の整備要望
- ・フレキシブルワーク推進のための電話環境整備

⑤ 人材育成・支援体制関連への意見

- ・職員向け研修の充実が必要
- ・マニュアル整備の要望
- ・デジタル推進部門に相談しやすい体制を求める声

⑥ 庁内の気運醸成

- ・管理職が自ら DX を実践し、リーダーシップを発揮すべき
- ・完璧を求めるのではなく、少しずつ改善する姿勢が重要
- ・職員がチャレンジしやすい環境づくりが必要

3 意見交換

【総務部】

- デジタル化を進めるには、単にツールを導入するだけでなく業務のやり方そのものの見直しが必要であると考えている。
- 予算もある中で、仕組みとあわせて工夫を行わなければ、効果は十分発揮されないと思っている。

【知事コメント】

- DXの成否はトップ次第であり、組織の責任者の姿勢が必要である。
- 新しい取組は一時的に手間だが、短期間で効率化を実感できるものであり、積極的に取り組んでいただきたい。
- 知事として、組織全体の空気を変えていくつもりであり、各部局のリーダーも率先して取り組んでいただきたい。

【健康福祉部】

- 内部打合せはペーパーレス化が進んでいる
- しかし以下の課題あり、どうしてもペーパーレス、業務改革が進んでいない。
 - オンライン会議の通信不具合
 - 医療・福祉分野は業務上、紙による処理が非常に多い
 - 民間事業者や住民の申請が紙中心となっており、それを受ける県庁も紙による処理となってしまう
- 紙資料のPDF化にも大きな負担がかかる

【デジタル担当コメント（補足）】

- 通信不具合はネットワークの問題であり、すでに改善済み。
- 今後は安定した運用が可能なため、改めてオンライン会議などの働く環境改善を検討頂きたい。

【浅野副知事コメント】

- 紙削減の目的は「紙を減らすこと」ではなくデータ化と情報漏洩防止であり、まずはそういった視点を持っていただきたい。
- 一方、医療・福祉分野の紙問題は構造的な課題であり部局横断で検討すべき。
- データ活用など、デジタルの知見を活かしつつAI活用などの現場ニーズに制度側が応えられるようデジタル推進監室と健康福祉部、両部局でしっかり検討して欲しい。

【文化観光スポーツ部】

- デジタルマップや会員証の電子化など、個別施策は進んでいる
- ただし、幹部層のペーパーレスが遅れている（出張先でのレクチャーを受ける…等）
そのために、出張先でも業務可能な環境（タブレット等）が必要だと感じている。

【デジタル推進監室（確認・補足事項）】

- 今後の対応の中で、まずは部長級から…というところではあるが、SIM付PCの導入を検討しており、環境面のさらなる改善を進めていきたい。

【企画振興部】

- ペーパーレスレクは進んでいる。レク自体もチャットで済むものはレク不要としている。
- 一方で クリアデスクは徹底できていないとは感じている。
- 会議のオンライン併用が不十分。部内で意識して進めていきたい。
- 引き続き会議の見直しや打合せ自体の削減を進める。
そのうえで職員の時間を確保し、職員が業務改革に必要な作業に取り組めるようにしたい。
- オンオフについては、管理職の責任のもと、しっかり進めていきたいと思う。

【復興部】

- 共通の型については、全庁同様、クリアデスクの励行が進んでいないのが現状。
被災者からの直接的なやり取りや、担当が固定されている部分もあり、ペーパーレスと合わせて、必要性や効果を感じづらい業務環境となっている。
これは業務改善と合わせて、クリアデスクなどの型に取り組んでまいりたい。
- 若手職員からは、AI の活用について推進を希望する声があり、研修などのデジタルスキルの研修などを増やして頂きたい。

【危機管理部】

- 補助金などは、制度が変わらず大量の添付書類を提出させているにもかかわらず、決裁処理だけ電子化してしまい、結果として非効率（紙＋電子の二重作業）となっている。
- 先の意見にもあったが、申請・添付書類の考え方等、業務自体を見直す必要があると感じている。
- フリーアドレスについては、そうしやすい支援を「環境整備」としてデジタルから実施していただきたい。

【浅野副知事】

- 危機管理部として、フリーアドレスの有効性、必要性はどう考えているか？

【危機管理部】

- 有事対応ではフリーアドレスは有効（柔軟なスペース利用）だと思うが、すべての部で必要かは疑問が残る。

【浅野副知事】

- フリーアドレス・ペーパーレスは万能ではない。行政は民間のように床面積の削減という要素は小さいが、業務の面から「なぜフリーアドレスを行うのか」という目的に立ち返ることが重要（ペーパーレス：情報管理・場所制約解消フリーアドレス：効率性・柔軟性）。
- 行政に適した導入理由を整理すべき。

【山野知事】

- ペーパーレス導入の意義は、「どこでも業務・会議参加可能」、「情報共有による業務の属人化の是正」である。
こういった点を踏まえて、適切に進めていただきたい。

【警察本部】

- 独自の閉域ネットワークを運用しているが、各都道府県と連携可能な共通基盤整備を進めている。
- AI・RPAの活用も検討しており、業務のDXを進めてまいりたい。

【教育委員会】

- 本庁ではペーパーレスがまだ進んでいない。紙が主流となっているため、改善を進めてまいりたい。
- 一方、学校現場では「PC統合」や「AI活用」が進み、教員の意識も変化している。
引き続き、デジタル活用、DXに向けた取り組みを進めていく。

【生活環境部】

- 一部職員はRPA等を活用できるスキルの高い職員がいるが、全体としてスキルにばらつきを感じている。
- デジタル部門への相談を促進することで、部全体の業務改革を進めてまいりたい。

【商工労働部】

- ペーパーレス・フリーアドレスは比較的進展しており、Web会議も一般企業が業務パートナーということもあり、標準化されている。
- 一方で、県民・事業者側のデジタル化も県としては不可欠だと感じている。
- 庁内のデジタル化も必要ではあるが、例えば企業から提出されるものも合わせてデジタル化されないと、どちらかが足を引っ張ってしまいデジタル化が進まないことになってしまう。
行政内部と外部の両輪で進める必要を感じている。

【農林水産部】

- 型については、全体同様「クリアデスク」が低くなっている。
これは紙の資料が多いという部局ということもあり、ある程度はしょうがないとは思っている。
- 一方、やはり職員側の意識啓発というものは大切で、必要な業務を進めつつ、「セキュリティのための取り組み」といった目的意識を共有していくことで、少しでも取り組んでまいりたい。

【競馬事業局】

- 内部の業務についてはTeamsでコミュニケーション向上を図っているが、外部の方との打ち合わせでは紙が多くなっている
- 顧客サービスで、投票のオンライン・キャッシュレス化を導入した。今後この仕組みに新たな機能を付与することなども検討したい。

【土木部】

- 業務の性質上、図面業務など紙が不可欠な分野があり、紙が残っているところがある。
- インフラの管理情報を共通の基盤に載せることで、生産性を高める余地もあるとは感じている。
- 投資が必要になるので、一朝一夕にはできないが、色々なものを試しながら段階的に勧めていきたい。

【出納室】

- 審査業務は紙の方が精度が高い面あり、ペーパーレスが進んでいない。
- とはいえ、影響力が少ない部分に限定しつつ電子化を進めて効率化に取り組んでいる。
- 制度・精度との兼ね合いが課題であり、職員の負担も考慮しながら、少しずつ工夫を重ねているところである。

【広報公聴室】

- 県政出前講座について FAX での申請を廃止し、LINE フォームへ完全移行を実施してみた。
- 難しいという声もあるが利用者への説明を行いながら、デジタル化を進めているところである。

【酒井副知事】

- 管理職がリーダーシップをもって進めるというところが大切であり、幹部の皆様には意識的に実施していただきたい。
- 100点の改善ではなく、少しずつの改善でもよいという考え方が必要。
- 若い職員もチャレンジしやすい配慮を検討していただきつつ、今回の予算にあったチャレンジを後押しする姿勢で取り組んで頂きたい。

4 閉会挨拶（山野知事）

- 生成 AI を活用し、過去データを分析することで将来を予測し、先回りして対応することが重要。早期に手を打つことで後の業務負担の軽減につながるので、積極的に活用頂きたい。
- 一方、AI は過去データに基づく予測には優れるが、過去の延長だけでなく「これからどうするか」を常に考える姿勢が職員には必要である。人間は「新しい発想・提案」を担うべきであり、そういった業務に注力頂きたい。
- チャレンジを後押しする組織環境づくりが必要であり、若手職員の提案を促進する予算を計上したところである。
- 上司は過度に干渉せず、相談時に助言する立場にしていただきたい。
若手の発想を活かし業務負担軽減・県民サービス向上につなげることが大切であり、我々はそのバックアップに注力頂きたい。
- 固定電話の見直し（廃止含む）を総務部のほうでは意識頂きたい。
- 固定電話が残るとペーパーレス・フリーアドレスが形骸化する。
本当の意味での DX をすすめて働きやすい環境づくりに取り組んでいただきたい。
-